



令和7年度 川西町立小松小学校 学校通信

# 小松小だより

No.10 令和8年3月18日 文責：紺野 健

## 感謝を込めて

昨日3月17日は、修了式を行いました。231名、全員の各学年、特別支援学級の教育課程を修了し、次の進学、進級することをみんなで讃えました。また、学校において、子ども達、そして職員の命が211日間、守られたことを安堵し、学校に携わるすべての方々に改めて感謝の気持ちが湧いてきたところです。保護者の皆様、地域の皆様、ボランティアの皆さま、各関係機関の皆様のご支援に心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

本日は、一人ひとりの成長を感じながら、学校を代表し、四十二名の卒業生に卒業証書を授与しました。この日を迎えるにあたって、子ども達は自分の弱さや欠点も含め、自分のよさを探し、毎日毎日を積み上げてきました。また、子ども達を支える私達大人も自分を成長させながらの毎日でした。人間はどんなに歳を重ねても未熟であり、日々成長を目指しています。以前、「未熟な大人が未熟な子どもを育てるということに『おそれ』を感じなさい」と教えていただいたことを改めて思い出しております。

平和な21世紀に私達人間の成長を感じていましたが、世界を見れば、昨今は主権を握るため、より自分たちが物質的な豊かさを求めるため、経済力や武力で他国を脅かすことが続いています。子ども達につなげたい豊かさは「心の豊かさ」であり、それは温かさであり、他を思う心であり、誰かの役に立ちたいと思う心です。競争は自身の意欲を高めるものであり、けっして他者を打ち負かすことに喜びを感じるためのものではありません。

未来を生きる子ども達のさらなる健やかな成長を願い、保護者の皆様、地域の皆様、学校に携わってくださるすべての皆様と共に、これからも『おそれ』を感じながら、全職員で教育活動に取り組んでまいります。

令和七年度、本当にありがとうございました。心より感謝を込めて。



6年生が1年生をエスコート（1年生を迎える会）



1年生が6年生をエスコート（6年生を送る会）

## 保護者の方との会話から

先日、保護者の方と街中でお会いしたときのお話です。

「子どもから『宿題のドリルを学校に忘れてきたから取りに連れてって。』と言われたけど、PTA総会の時の校長先生の話で、『忘れたら自分でできる勉強を考えてやるのが大切です。』という話を思い出して、子どもに話してみました。そうしたら『そうか。』と自分で考えて勉強に取り組みました。こういうことも大事ですね。」と。

私は、2年前の総会時に話したことを覚えていただいていることに感激し、また、そのことをお子さんに話してくださったことをとても嬉しく思いました。さらに担任の先生も、保護者の方の考えに基づき対応していることに、共通理解の中で進むことの大切さを改めて思いました。

“これ以外はだめ”ではなく、自分で判断して解決してよいことは実はたくさんあるのではないかと思います。お子さんが「そうか。」と自分で自分なりに宿題を考えたこと、とても価値のあることだと思います。

私達は“こうでなければならない”に縛られすぎると、自由な発想ができないばかりか、他者の考えを否定することにつながることもあります。学校も、これまでの当たり前をこの視点から見つめ直しています。より自由度が高い中で個々が判断できる環境を、共に考えてまいりましょう。

さらに、こうした考え方を展開していく中には、働き方改革の視点がございます。保護者の皆様の会社等でも、進んでいることと思います。来年度は、教職員の健康保持や時間管理といった視点で、電話対応時間の設定やおたよりの電子化、面談や会議の時間設定の改善など皆様に協力をお願いすることがあります。御意見をお聞きする場も設けていきますので、ご理解とご協力をお願いいたします。



### 重要な連絡です

令和6年度のPTA総会においてお話しましたが、学級編成は、必ずしも3年進級時、5年進級時とは決まっておりません。令和8年度の新4年生、新6年生においては学級編成替え（クラス替え）を状況に応じて行うことを検討しています。保護者の皆様にはご理解とご協力をお願いいたします。なお、学級編成替えを行う場合は、当該学年にマチコミで連絡いたします。

**御礼** 山形県視覚障害者福祉協会より届きました「書き損じハガキ等」の寄付依頼について、たくさんの方々からご寄付いただきました。ハガキは101枚、切手は15枚（84円切手）となりました。いただいたご寄付は、確実に山形県視覚障害者福祉協会に届けます。本当にありがとうございました。